

県政さわやかタウンミーティング

富士財務事務所次長兼管理課長

主催者	部局	財務部	所属	富士財務事務所管理課
開催日時	令和7年05月27日（火） 19時～20時			
会場	富士総合庁舎201会議室（）			
名称	県政さわやかタウンミーティング 未来への森づくりタウンミーティング			
テーマ	「森の力再生事業」と「森林づくり県民税」について			
開催目的	富士農林事務所森林整備課が開催する「未来への森づくりタウンミーティング」において、「森林づくり県民税」を財源とする「森の力再生事業」による荒廃森林の再生の成果等の周知を図り、県民の意見や意向を把握するため			
参加者	森林組合等 <input type="checkbox"/> 小学生未満 <input type="checkbox"/> 高校生 <input type="checkbox"/> 特別支援学校生 <input type="checkbox"/> 小学生 <input type="checkbox"/> 大学生 <input type="checkbox"/> 中学生 <input checked="" type="checkbox"/> 一般 <input type="checkbox"/> その他（）			37人 男 31人 女 6人
対応者	富士財務事務所次長兼管理課長 富士財務事務所管理課長代理			

開催結果概要

開催方法 (方法・次第等 概要)	1 「森の力再生事業」の成果、「森林づくり県民税」と「森林環境譲与税」、森林の現況調査の結果について（森林整備課が説明） 2 「森の力再生事業」の評価、新たに確認された荒廃森林の対応について（意見交換、意見聴取）		
意見件数	12件（担当事業 0件、担当事業外 12件）	発言者数	8人
意見概要	◎ 「森の力再生事業」について ・ 事業継続に賛同する発言が中心であった。 ・ 対象範囲の拡大、地域ごとの要望によるメニューの検討、獣害対策等も進めて欲しいとの意見があった。 ◎ 「森林づくり県民税」について ・ 年間400円は負担感がなく財源確保としてよいと考える。 ・ 認知度を上げるために、メディア等を活用しPRをしていくべきとの意見があった。		
施策への 反映の方向性	「森林づくり県民税」についての理解をより一層深めてもらい、今後の円滑な事務執行に努める。		

県政さわやかタウンミーティング

沼津財務事務所長

主催者	部局	財務部	所属	沼津財務事務所管理課
開催日時	令和7年04月23日（水） 15時～17時15分			
会場	フーディアムインターナショナル バンケットホール（）			
名称	県政さわやかタウンミーティング			
テーマ	県税・県予算の概要と使い道			
開催目的	県税・県予算及び県の施策についての理解を深めてもらう。			
参加者	沼津間税会 <input type="checkbox"/> 小学生未満 <input type="checkbox"/> 高校生 <input type="checkbox"/> 特別支援学校生 <input type="checkbox"/> 小学生 <input type="checkbox"/> 大学生 <input type="checkbox"/> 中学生 <input checked="" type="checkbox"/> 一般 <input type="checkbox"/> その他（）			40人 男 0人 女 0人
対応者	沼津財務事務所長			

開 催 結 果 概 要			
開催方法 (方法・次第等 概要)	沼津間税会通常総会において、静岡県県の令和7年度予算、県税の収入状況、主な事業等について説明		
意見件数	2件（担当事業 2件、担当事業外 0件）	発言者数	2人
意見概要	<ul style="list-style-type: none"> ・（森林づくり県民税関係）個人保有の森林の管理・荒廃への対応が危惧される。 ・間税会として租税教室を通じ学生達に税の大切さを伝えている。税の重要性を実感できるよう税を使ってほしい。 		
施策への 反映の方向性	県税に関する最新情報を周知することにより、今後の円滑な県税務行政に資するとともに、同会の租税教育活動を通じ、将来の納税者となる学生及びその家族への波及効果も期待できる。		

県政さわやかタウンミーティング

県民生活課長

主催者	部局	くらし・環境部	所属	県民生活局県民生活課
開催日時	令和7年07月18日（金） 15時15分～16時30分			
会場	ALWFロッキーセンター大会議室（）			
名称	県政さわやかタウンミーティング			
テーマ	消費者行政に関する意見交換			
開催目的	県の消費者行政について広く意見を求め、今後の施策展開の参考とするため。			
参加者	静岡県生活協同組合連合会 <input type="checkbox"/> 小学生未満 <input type="checkbox"/> 高校生 <input type="checkbox"/> 特別支援学校生 <input type="checkbox"/> 小学生 <input type="checkbox"/> 大学生 <input type="checkbox"/> 中学生 <input type="checkbox"/> 一般 <input checked="" type="checkbox"/> その他（県内消費生活協同組合職員）			15人 男 9人 女 6人
対応者	県民生活課長			

開催結果概要			
開催方法 （方法・次第等 概要）	県事業の説明、生協活動報告、意見交換		
意見件数	3件（担当事業 3件、担当事業外 0件）	発言者数	3人
意見概要	<ul style="list-style-type: none"> ・「ちょっと待った！やばみちゃんファミリー」の動画について、たくさんの方に見ていただきたいので、自分から探しに行かなくても目にしていだけるようなきっかけを作っていただけると良い。 ・高齢者の見守り体制の強化の観点から、医療や介護の専門職にも消費者啓発や注意喚起の情報が伝わるようになると良い。 ・若年層の被害状況を踏まえると、企業や大学生への消費者教育の実施をお願いしたい。 		
施策への 反映の方向性	<ul style="list-style-type: none"> ・啓発動画の広報については、県民だよりへの掲載等の方法により、可能な範囲で実施していく。 ・見守り者向けの啓発や若年層への出前講座の実施について、今後検討していく。 		

県政さわやかタウンミーティング

多文化共生推進官兼企画部理事

主催者	部局	企画部	所属	多文化共生課
開催日時	令和7年07月21日（月） 9時30分～11時30分			
会場	静岡県庁別館20階第一会議室C（）			
名称	県政さわやかタウンミーティング 多文化共生シンボルマーク審査委員会			
テーマ	静岡県の多文化共生の理想像、外国人が増える中で感じる課題			
開催目的	多文化共生に関する課題や静岡県への期待等について意見を求め、多文化共生施策の参考とする。			
参加者	シンボルマーク審査委員 9人 男 3人 女 6人 <input type="checkbox"/> 小学生未満 <input type="checkbox"/> 高校生 <input type="checkbox"/> 特別支援学校生 <input type="checkbox"/> 小学生 <input type="checkbox"/> 大学生 <input type="checkbox"/> 中学生 <input checked="" type="checkbox"/> 一般 <input type="checkbox"/> その他（）			
対応者	多文化共生推進官兼企画部理事 多文化共生課長			

開催結果概要

開催方法 (方法・次第等 概要)	<p><開催方法></p> <ul style="list-style-type: none"> ・対面 ・静岡県多文化共生シンボルマーク審査委員会2次審査内で併用開催 <p><次第></p> <ol style="list-style-type: none"> 1 開会 2 インターカルチュラルに関する意見交換 <ul style="list-style-type: none"> ・自己紹介 ・意見交換 3 シンボルマーク審査 <ul style="list-style-type: none"> ・シンボルマーク評価 ・評価票記入 ・シンボルマークについての感想共有 4 閉会 		
意見件数	9件（担当事業 9件、担当事業外 0件）	発言者数	9人
意見概要	<p>（多文化共生の理想像）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・他国の文化に興味を持ち、歩み寄りや尊重することでお互いの理解が進む。日本人からも文化を伝えて分かち合うことが必要。 ・外国人を特別扱いしないことが理想。 ・「多文化共生」は日本にいる外国人にのみ働きかけるものではなく、日本人を含む全ての人に関係するものとしていくことが理想。 ・外国人と日本人が交流するなかで、お互いに良い影響を与え合って、一人一人が自分らしさを発揮して、地域を形作る一員となることが理想。 <p>（課題）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・周囲の人が優しく、差別されているとは感じていない。 ・日本語で理解できるので、日本語で話してもらえれば良い。 ・選挙権があるのに、日本人は投票に行かない。 ・（学校などで）いじめはある。でも「やめて」と言えない。 ・（参政党の日本人ファーストに関連し）FirstとFastが人をだめにしてている。日本の文化を尊重することは必要だ。今のタイパ・コスパという考え方はよくない。 		
施策への 反映の方向性	<p><多文化共生シンボルマーク></p> <ul style="list-style-type: none"> ・多文化共生シンボルマークを一部の人の意見から決定するのではなく、審査の過程がインターカルチュラルの取組となるように、外国人県民や大学生など多様なバックグラウンドを持つ方の意見 		

を反映しながら、多文化共生シンボルマークの審査を進めた。

<通常業務>

・排外主義的な風潮も見られる中で外国人県民・多文化共生の専門家・大学生などから「多文化共生の理想像」や「課題」について、実体験に基づいた意見を把握できたことから、通常業務においても、タウンミーティングで出た意見を念頭において、施策を推進した。